

南米アマゾンだより

黒田 真琴(高12)

ブラジル移民100年(2008)
アマゾン移民80年(2009)
移住して50年近く、異国の大地
に根を張る同窓生がいます。



私の仕事は百姓、果樹栽培です
が丁度マンガスチンとランブータ
ンの最盛期。ゆっくり書く暇が無
いけどパソコンの便利さ(漢字を
忘れた者には最高)を活用して、
簡単な近況報告を。

先ずは家族の紹介、妻は新潟の
産。新発田高校の後、大和学園在
学中移住研究クラブに所属。その
折友人の紹介で知り合い文通結婚
息子三人、長男(アルベルト真太・
38才) 国税局アマバ州支局長、
妻はブラジル人で裁判官、子供二
人。次男(ベルナルド隆次・36才)
医師で独身。三男(エルネスト千
晶・33才) PPG社員、妻は日系
三世で歯科医。

この三男、千晶に2月第一子男
児誕生、早くから見に来てくれと
催促。農繁期だったけど航空切符
まで用意してきたので重い腰を上
げ先月末から今月(09年5月)に

かけサンパウロまで行ってしま
した。

次男と三男はサンジョゼドスカ
ンポスという同じ町に住んでおり、
先に家内が行った折共謀というか
かなり強引に世界三大瀑布の一つ
イグアスーの滝観光を計画、アマ
ゾンを飛び経ったと同時に全て息
子らの言いなりに従った旅となり
ました。

死ぬ前に一度は見せてやろうと
ありがたいような計画だったけど、
胃の検査まで含まれていようと
心外。これではなにやらもう先が
長くはないと考えていたみたい。
初めての胃カメラでしたが何も異
常はなく安心というかまだまだ働
けというサイン? 複雑な旅の成果
でした。

旅行中息子らとゆっくり話し合
えたのは予想外の収穫。移住の動
機、結婚、仕事、リタイアについ

て質問攻めにあう始末。拓殖大学
移住研究会に在席中、故澤田美紀
女史のクリスチャンコロニー、混
血孤児の為の楽園建設構想に共鳴
先発隊として1963年に移住し
たこと。澤田女史のサンダースホ
ム開設のきっかけとその思想、あ
の当時敗戦の落し子と言われた混
血児とその母親に対する差別偏見
などいろいろと説明して聞かせま
した。

最近日本で何回か澤田美紀女史
とサンダースホームのヒストリー
と卒園者の近況が、テレビで放映
されたので見た人も多くいると思
います。当地に移住した赤沢ジョ
ジ(卒園者では一番の成功者)は
私と同じ町カスターニヤルに住ん



家族に囲まれて

でいたので親しく交際していたの
ですが、2月胃がんのため他界し
ました。

私も68才、次々と友人知人に先
立たれ、日本からの移住者はここ
30年ほど来ていないので日本人が
段々少なくなり寂しい限りです。
さて以下独立してからの私の経
歴を簡単に記してみます。

サンダースホーム卒園者の受け
入れ準備(原始林伐採から胡椒の
植え付け、住宅や集会所の建設な
ど)に3年携わり、1966年に
独立。カスターニヤルに農地を購
入して胡椒栽培を始めるも4年後
病害で全滅。その後野菜や果物を
植えて奮闘、一時パイヤ栽培で
かなりの利益を得て2000kmほ
ど離れたブラジル高原(かつて田
中角栄首相が日本の技術と資本で
一大穀倉地帯にする)と豪語して物
議をかましたところ)に友人7人
で1500haの灌木の原野を買っ
て大豆や米の大規模機械化農業に
挑戦、天候不順と資金不足のため
3年で無念の撤退、ブラジルらし
い博打ぶうな体験でした。10才前
後の3人の息子もいたのでこれ以
上無謀な冒険もできず再びカスター

ニヤルに戻り今の果樹栽培に専念
します。

3年前から家内が趣味でやって
いた蘭の栽培をもとに、鉢植えの
花や果樹苗をつくり農場でとれる
果物と一緒に家の前で使用人一人
使って直売しています。ちなみに
私の栽培している果樹は約40種、
日本でも知られていると思う果物
も大分あります。

マンガスチン、ランブータン、
アサイ、カムカム、アセローラ、
ドラゴン
フルーツ、
クブアス、
パッション
フルーツ、
グアバ、
バナナ、
ヤシなど。
もうリタ
イアする歳
なのに、3人の息子らは農業にあ
まり興味はなく、後を継ぐ者はい
ません。あと何年やれるか? 生涯
現役やむなしです。最後に当地の
生活の一端でも想像できればと下
手なうたですが、短歌(狂歌?)
を3首記して終わりにします。



☆アマゾンは 金はなくとも 豊かなり 門戸は広し 母なる大地
☆カーニバル 三日三晩の 狂乱舞 国家も民も 楽天性
☆移り来て 幾年月ぞ 混血の 孫に聞かせし 古里の歌